

4. おわりに

地震・津波が発生した時、「地震イコール津波、即避難」の考えのもと、一人ひとりが自分の判断により安全な場所へ避難することが重要です。

千葉県では、平成 18 年度に過去、千葉県近傍で発生した巨大地震である 1677 年延宝地震および 1703 年元禄地震を対象に銚子から富津岬間での津波シミュレーションを実施し、浸水域等の情報を県民に提供してきました。本調査では、最近の研究結果を踏まえ、元禄地震の新たな地震波源モデル（2011 年行谷ほか）により、千葉県沿岸全域および主要河川での津波の河川遡上を考慮した津波浸水予測図を作成しました。

また、地震・津波はいつ、どこで発生するかわからないことから、津波で命を落とさないことを第一に、津波が発生した時に住民の方が避難行動の「きっかけ」となる気象庁の津波警報を聞き、安全に避難するため、気象庁の津波警報に対応した津波浸水予測図を作成しました。

本調査は、東日本大震災千葉県調査検討専門委員会（座長：中井正一 千葉大学大学院教授）の貴重な御意見、御指導をいただきました。

また、関係部局、市町村から貴重なデータや協力を受けました。ここに記して感謝いたします。

最後に、留意していただきたい点を以下に記します。

- 津波浸水範囲予測の結果は、あくまでも一定条件下での予測結果であり、浸水範囲等の予測値にはシミュレーション上の誤差も有しています。避難等での活用においては、この結果を基にさらに安全を確保することを忘れないでください。
- 気象庁の津波警報に対応した津波浸水予測図は、津波予報区の全ての沿岸で津波警報区分の津波高が発生した場合を想定したもので、現実にはありえないものです。

東日本大震災千葉県調査検討専門委員会委員名簿（五十音順）

氏名	役職	備考（分野）
大井 昌弘	独立行政法人防災科学技術研究所 研究員	情報発信
佐竹 健治	東京大学大学院地震研究所 教授	津 波
佐藤 慶一	東京大学社会科学研究所 准教授	情報発信
宍倉 正展	独立行政法人産業技術総合研究所活断層・地震研究センター 海溝型地震履歴研究チーム長	津 波
田中 淳	東京大学大学院 情報学環総合防災情報研究センター長・教授	情報発信
中井 正一	千葉大学大学院工学研究科 教授	地震動、液状化 (座長)
畑中 宗憲	千葉工業大学工学部 教授	地震動、液状化
安田 進	東京電機大学理工学部 教授	地震動、液状化
山崎 文雄	千葉大学大学院工学研究科 教授	津 波

平成 23 年度東日本大震災千葉県津波調査業務委託
報告書概要

発行年月 平成 24 年 3 月

企画・発行 千葉県防災危機管理監防災危機管理課

指 導 東日本大震災千葉県調査検討専門委員会

調 査 パシフィックコンサルタンツ株式会社